

平成22年度事業評価シート(ハード事業)

NO. 23

評価2 ハード

1 事業名等(Plan 1)

事業名	里山保全整備事業					
所属名	基盤整備部	都市整備課	公園・住宅グループ			
第七次総合計画	政策	3「すみよさ」のあるまちをめざして	分野	1 自然	基本施策	1 恵まれた自然を守り活かす
予算科目	7	4	5	景観保全総務費	74503	緑地保全推進
				費		事業費
				費		事業費
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	緑の基本計画					
事業の実施主体	○ 市		市以外→			
事業の実施方法	○ 直営		指定管理	業務委託	団体等補助	その他→

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	市民及び観光客	受益者数	人
概要	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	市街地景観と、里山の自然を保全し、「すみよさ」を感じられる生活空間を創出する。		
	事業の実施手法、手順	市街地の緑化意識の高揚と推進、市街地を取り囲む里山の緑を守り、自然環境の保持及び植物の保護を行う。		
概要	事業始期・終期	始期： 18 年度から	終期： 26 年度まで	設定なし
	今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入		

3 事業費の推移・結果(Do)

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
総合計画計画額(当初)	10,000	10,000	30,000	30,000	30,000	
総合計画計画額(計画額)	10,000	10,000	30,000	30,000	30,000	
事業費(計画・予算・見込・決算額)	250,500	10,000	30,000			
財源	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	受益者負担					
	緑入					
	()					
	一般財源	250,500	10,000	30,000		
		187,819	5,672			
	H17国勢調査	96,231 人	32,174 世帯	※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価		
	受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位 %	-	-		
市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位 円/人	1,952	59			
1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位 円/世帯	5,838	176			
受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位 円/人					
↓ その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)	単位 円/人					

(成果面)

活動・成果指標	活動指標(投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標)	指標名	里山用地取得面積	資料・出展算出式	取得面積 /	単位	ha			
	活動	目標値	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	活動の方向
	実績値	3	2	3	3	3	3	3	3	↑
成果指標(活動やサービスを行った結果、市民にどのような影響(効果)をどれだけ与えたかを表す指標)	成果指標	指標名		資料・出展算出式		単位				
	成果	目標値	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	成果の方向
	実績値	-	-	-	-	-	-	-	-	

3 事業費の推移・結果(Do)

前年度までの実績(累計)	対象・手段	旧パークウル跡地の建物解体・公園整備事業、並びに中山丘陵周辺の里山購入	193,491 千円
	事業費	(内容) 建物解体・公園整備 1187,819 千円 里山購入 5,672 千円 その他 千円	
	受益者負担	(内容) 千円	
本年度	対象・手段	中山丘陵周辺の里山購入	30,000 千円
	事業費	(内容) 里山購入 30,000 千円 その他 千円	
	受益者負担	(内容) 千円	

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)	判定理由	市街地を取り囲む里山を取得することは、里山の緑を守り自然環境の保持及び植物の保護が図られ、事業の必要性が高い。	判定	A:非常に高い B:高い C:低い D:非常に低い	目的評価	B	
②コスト面評価(事業の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)	判定理由	旧パークウル跡地の整備エリアが広く、事業費が総合計画計画額より大幅に増額となったため。	項目	②コスト面	増加	維持	減少
③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)	判定理由	里山の緑を守り自然環境の保持及び植物の保護が図られる。	③成果面	拡大	維持	減少	
			コスト・成果ポジション				F
			第4水準				

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→ I 「良い」	良好な水準を維持
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→ II 「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→ III 「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→ IV 「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→ V 「良くない」	「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

5 今後の方向性(Action)

評価結果に対する改善提案(下記チェック)	計画どおり	改善・継続	終期設定	休止	廃止	完了
活動の方針	昨年度までは旧パークウル跡地整備により、事業費が増額となったが、今後は計画的に里山の用地取得を行う。					
次年度実施方針	引き続き、中山丘陵周辺の里山購入					
総合評価			コスト	成果	評価区分	
			高	高	III	
「II」以上の水準に向けた改善が必要						
里山を購入し、市街地に残る貴重な自然環境を保全することはすみよさのあるまちづくりのために必要な事業である。旧パークウル跡地の建物解体、スカイパークの整備により事業費が増大したが、阻害要因が除かれ公園として整備されたことは大きな成果である。今後も計画的に用地取得を行い、確実に里山を保全していく必要がある。						